



城北小だより

9月号

令和6年8月28日

さいたま市立城北小学校

TEL 048-757-5391

児童数697名

◇学校教育目標◇

「考える子 思いやりのある子 がんばりぬく子」

夏休みに感じたこと

校長 中村 篤

夏休みも終わり、学校にも子どもたちの元気な姿と声が戻ってきました。熱中症や事故等が心配される中、無事に始業式を迎えることができたのも、子どもたちの生活を見守ってくださった保護者・地域の皆様のご協力によるものと感謝申し上げます。

さて、パリオリンピックの閉会式が日本時間の8月12日に行われ、次の開催都市・ロサンゼルスにオリンピックの旗が引き継がれて17日間の大会が幕を下ろしました。様々な競技において日本人選手の熱い戦いに胸を打たれました。その中でも、スケートボード男子ストリートで東京五輪に続き、2大会連続となる金メダルを獲得した堀米雄斗選手の演技には特に感動しました。1つの技の出来で得点を競うベストトリック1回目は94.16点と良い点数を出したものの、他の選手も得点を伸ばしてきたため、2回目以降は難易度の高いトリックを選択し、競技の間にも必死に練習をしていたそうです。体には痛々しい痣も残っていました。しかし2～4回目は失敗に終わり、最後を残して金メダルをとるには96.99点以上が必要でした。5回目、大技が成功して97.08点という高得点を叩き出し、見事に優勝しました。7位からの大逆転劇でした。私が感動したのは堀米選手の演技だけでなく、彼の競技に対する考え方にもあります。

堀米選手は五輪予選で成績が振るわず、1位でも五輪に出場できるか分からない状況であきらめかけていたところを、1%の可能性を信じて競技に臨んだそうです。そして、五輪でもその1%を最後まで信じて演技に臨み、勝利をつかみ取りました。テレビ番組のインタビューでも、「可能性が少しでもある限りは可能性にかけていきたい」「前の準備がちゃんとあることによって、1%だけど1%じゃない」「可能性のある限りは挑戦したい」と話していました。さらに、SNSには「1%も可能性のあるなら」と投稿していました。この前向きな姿勢は子どもたちにとっても私たち大人にとっても見習わなければならないことだと強く感じました。そして、4年後のロサンゼルスオリンピックについては「これからきつい道があることがわかっている。自分に対しての挑戦でもある。それが夢にもつながっていると思う」と語っています。「可能性や自分を信じること」「あきらめず挑戦し続けること」「自分の夢を描くこと」の大切さを堀米選手から改めて学ぶことができました。その他の競技でも学ぶことがたくさんありました。子どもたちにも機会があるごとに伝えていきたいと考えています。

話は変わり、8月8日に日向灘を震源とするマグニチュード7.1の地震が発生しました。この地震の発生に伴って、南海トラフ地震の想定震源域では、大規模地震の発生可能性が平常時に比べて相対的に高まっていると考えられたことから、同日、南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）が発表されました。さいたま市でも災害警戒本部を設置するなど対応にあたりました。恥ずかしながら我が家は地震に対する備えがほとんどできていません。あわてて風呂に水を張り、モバイルバッテリーを充電し、車のガソリンを満タンにしました。気象庁によると南海トラフ地震は今後30年以内に発生する確率が70から80%であり、埼玉県でも県南部を中心に震度5強～5弱の揺れが起これると予想されています。本校でも子どもたちが安全に避難できるよう、危機管理対応マニュアルの見直しや避難訓練・引渡し訓練を引き続き実施してまいります。ご家庭でも災害時の対応について、今一度話し合い、確認をしてください。

2学期も安心・安全な学校づくりを目指してまいります。保護者・地域の皆様には、一層のご理解・ご支援を頂きますよう、よろしく願いいたします。